

【科目名】音声学		【担当教員】氏平 明							
【授業区分】専門分野		【授業コード】 5-27-1070-2-1		(メールアドレス) http://ujihira.my.coocan.jp					
【開講時期】3年次 前期		【選択必修】必修							
【単位数】2単位		【コマ数】15コマ							
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 特になし (受講のルールに関わる情報・予備知識) 特になし									
【講義概要】 (目的) 日本語の音声を中心にして一般音声学の知識を身につける。(方法) 国際音声字母 (IPA) について学び、日本語音声を IPA で表記できることが重要な学習項目となる。続いて、母音の無声化、特殊音素の性質、モーラといった日本語音声の特徴について学習する。さらに、アクセントやイントネーション等の超文節素を理解し、日本語における超文節素の特徴についても学ぶ。理解しやすいようにプリント資料を使い講義を進める。また毎回、前回の講義内容の確認テストを行う。									
【一般教育目標 (GIO)】 日本語の音声を中心に学ぶ。音声がどのように生成され、どのように記述されるのかを学ぶ。 記述方法として国際音声字母、音素、拍を学ぶとともに、障害によつて的確な発話記述できるようにする。									
【行動目標 (SBO)】 ・日本語で使われる音声の音声記号が書ける。・日本語で使われる音声の調音方法、調音点がわかる。・IPAを理解する。・音韻論の初歩的知識を理解する。・超分節素がわかる。・日本語音声の特徴がわかる。・音声生成理論を理解する。・語音知覚の性質を理解する。									
【教科書・リザーブドブック】 齋藤純男・『日本語音声学入門 改訂版』三省堂, 2006年. ¥2,000+税									
【参考書】 必要に応じて授業内で指示する。									
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は本学学則規定の GPA 制度に従う。 記述式試験を実施する。試験 70%、発表や授業態度 30%の割合で総合評価を行う。									
【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		70				30			100点
評	取り込む力・知識	40							

平成 26～28 年度入学者用

価値指標	思考・推論・創造の力	30						
	コラボレーションとリーダーシップ							
	発表力							
	学修に取り組む姿勢							
【授業日程と内容】								
回数	講義内容	授業の運営方法	学修課題(予習・復習)	時間(分)				
1	音声学入門	講義と実習	必ず復習をすること	30分				
2	音声器官の名称	講義と実習	必ず復習をすること	30分				
3	音声様式とIPA表の見方	講義と実習	必ず復習をすること	30分				
4	IPAによる子音表記	講義と実習	必ず復習をすること	30分				
5	IPAによる母音表記	講義と実習	必ず復習をすること 次回講義前に小テスト	30分				
6	日本語音声の体系およびモーラ	講義と実習	必ず復習をすること	30分				
7	日本語をIPAで表記し発表する(1)	演習	演習で分かった学習不足部分を確認すること	30分				
8	日本語をIPAで表記し発表する(2)	演習	演習で分かった学習不足部分を確認すること	30分				
9	音声記号、分節素、音韻素性、音素、モーラ、音節ヒフットの関係	講義	必ず復習をすること	30分				
10	音声学と音韻論 I	講義	必ず復習をすること	30分				
11	音声学と音韻論 II	講義	必ず復習をすること	30分				
12	超文節素:イントネーション、アクセント、プロミネンスほか	演習	必ず復習をすること	40分				
13	音環境の影響:調音結合、同化、無声化、副次調音ほか	講義	必ず復習をすること 次回講義前に小テスト	30分				
14	音韻理論 I	講義	必ず復習をすること	30分				
15	音韻理論 II	講義	必ず復習をすること	40分				

※授業日・教室は随時学生ポータルサイトにて配信します。